

備中神楽の神歌および口上の現代英語訳 1 (「榊舞」「猿田彦の舞」) (An English Translation of the Divine Poems and Dialogues of *Sakaki-mai* and *Sarudahiko-no-mai* in *Bichu Kagura*)

Kiyoshi Yamauchi (山内 圭) ¹⁾ *

1) Department of Community Welfare, Niimi University (新見公立大学地域福祉学科)

(2021年9月22日受付、11月17日受理)

新見公立大学健康科学部地域福祉学科では、前身の新見公立短期大学地域福祉学科が1996年に開設以来、新見地域に伝わる地域文化である備中神楽を、短期大学時代には「地域文化演習」、4年制大学になってからは「地域文化実習」として授業科目の一部として取り入れ、地域の神楽社より非常勤講師を招き、学生に対して指導をしてもらっている。2020(令和2)年度から4年制大学としての「地域文化実習」が始まるにあたり、専任教員で英語を専門とする筆者が科目コーディネータとなった。2020(令和2)年度においては、新型コロナウイルス感染症感染拡大の懸念から、地域在住の外国出身者に対しては地域文化実習発表会の案内はできなかったが、同発表会は地域住民に対して学生たちが学んできたことを披露する場であるとともに、地域に住む外国出身者に日本文化を紹介するための機会ともなり得る。この度、本学の地域文化実習の非常勤講師であり備中神楽の唐松社の池田利文先生が文書化した演目ごとの神歌および口上¹⁾について、池田先生から英語への翻訳の許可をいただき、ここに紹介する。

(キーワード) 神楽 (*Kagura*)、備中神楽 (*Bichu Kagura*)、「榊舞」 (*Sakaki-mai*)、
「猿田彦の舞」 (*Sarudahiko-no-mai*)、地域文化実習 (Local Culture Practice)

1. はじめに

新見公立大学のある新見地域及びその周辺は備中地方と呼ばれ、この備中地方には地方内の各地に伝わり親しまれる備中神楽がある。備中神楽は、そもそも五穀豊穡と家内安全を祈るために行われたもので、かつては秋祭りの一大行事として夜を徹して舞われた庶民の郷土芸能である。その起源は、神々が出雲大社に集結するため各地の神が不在となる神無月(10月)において、荒神の魂を鎮めるために行われたところにあるようである。1979年2月3日には、国指定の重要無形民俗文化財となっている。備中神楽の物語の内容は、古事記および日本書紀が元になっている。

この度は、五七五七七の俳句の音数を持つ「神歌」があり、神楽の舞台と集う人の穢れを清める「榊舞」と、数え歌のような数字遊びを交えた猿田彦と太鼓打ちのやり取りがある「猿田彦命舞」に特に文学的価値を認め、英語に翻訳することとした。「猿田彦命舞」は、神剣で先々の穢れ、災いを断ち切る力強い舞である。

1) 榊舞(さかきまい) *Sakaki-mai* Performance

右手に鈴を持ち、厳(おごそ)かに舞う。

Dancers hold a bell by the right hand, and dance solemnly.

神歌(divine poems)

一、「この御座(みざ)に参(まい)る心は山の端(は)に一月を待つ夜の心こそすれー」

My heart while I am sitting here on this divine seat is like the one while I am waiting for the moon to rise from behind the mountain in the east.

二、「上よりも注連(しめ)にて参る注連の主(ぬし)ー注連(しめ)張(はり)たまえや注連守(しめもり)の神ー」

To the Deity on the Shimenawa rope, keep the rope tight to protect the divine field.

三、「下よりも御座(みざ)にて参る御座の主ー御座(みざ)貸(か)したまえや御座守(みざもり)の神ー」

To the Deity on the divine seat, please let me use your divine seat.

右手に扇(おうぎ)をもち、曲舞い

Dancers hold a fan by the right hand and dance.

*連絡先: 山内 圭 新見公立大学健康科学部地域福祉学科 718-8585 新見市西方1263-2

神歌(divine poems)

一、「榊葉(さかきは)を上(うわ)ず下(した)へに してつけて一
天地(あめつち)分けて 神を守らん一」

By waving divine tree sakaki's leaves up and down, let us
clearly divide divine and earthly worlds.

二、「榊葉を三種(さんしゅ)の神器(じんぎ) たてかけて一
正(ただ)する心 太玉(ふとだま)の神一」

By leaning divine tree sakaki's twig against the three
divine treasures, keep our heart sacred, Futodama God.

三、「奥山(おくやま)や戸(と)が山峰(やまみね)の榊葉を一
一枝(ひとえだ)たおりて 御座(みざ)を清(きよ)めん一」

With a twig of divine tree sakaki from inside of the forest
of Mt. Togayama, let us purify the divine seat.

四、「榊葉を外にはもらすな 氏人(うじびと)よ一
草木(そうもく)据(そろ)えて もとのろくじゅに
舞やおさめん一」

To the priest, keep the good divine tree sakaki our secret,
let us offer a dance to the green tree deity.

2) 猿田彦の舞(Sarudahiko-no-mai)

扇舞(Dance with a fan)

刀舞(Dance with a sword)

猿田彦「さって、このところに舞(ま)い出(い)だす神(かみ)
を、いかなる神とや思(おも)うらん一

そうも我(われ)こそは、天孫降臨(てんそんこうり
ん)のその御時(おんとき)に、木草(きくさ)を断
(た)ちて導(みちび)きしたもう太田(おおた)の臣
(しん)、猿田彦大臣(さるだひこだいじん)とはそも
それがしのことなり一

今晚(こんばん)神事(じんじ)の真(ま)っ先(さき)に
あたり、いかなる邪(じゃ)、外道明瞭(げどうめい
りょう)なすとも、この真劍(しんけん)をもって、
東西(とうざい)、南北(なんぼく)に切(き)り開(ひ
ら)き、大当番(だいとうばん)を始(はじめ)、十二
(じゅうに)の氏子(うぶこ)を守護(しゅご)なさば
やとぞんじ候(そうろ)一

Sarudahiko: Well, what god do you think appears now? Yes, I
am the very Sarudahiko Daijin, a servant of Ota. I
led the way cutting down trees and bushes at the
time of the descent of *Amaterasu's* grandson
Ninigi-no-Mikoto from Heaven.

At the beginning of ritual this evening, I will
protect twelve parishioners including the person in

charge, by cutting in all directions with this sword
if anything evil appears.

太鼓 「御(おん)、ありがたな事(こと)にて候(そうろ)一
Drum: Thank God, indeed.

刀舞(Dance with a sword)

猿田彦 「東方(とうほう)、南方(なんぼう)、西方(さいほう
)、北方(ほっぽう)、中央神地(ちゅうおうじんち)に
向(む)かって御前(みさき)はあるか！」

Sarudahiko: Do you see any evil omen in the divine fields in
the east, south, west, north or center?

太鼓 「御前(みさき)はなし！」

Drum: No evil omen!

猿田彦 「死魔(しよまん)はないか！」

Sarudahiko: Any death devil?

太鼓 「死魔(しよまん)はなし。」

Drum: No death devil.

猿田彦 「何(なん)にも無(な)ければ、一得(いっとき)、二
危(きにき)」

Sarudahiko: If nothing's wrong, one ding, two dangers.

太鼓 「三妖(さんよう)、四殺(しげつ)」

Drum: Three devils, four demises.

猿田彦 「五鬼(ごつき)、六害(ろくがい)」

Sarudahiko: Five demons, six damages.

太鼓 「七曜(しちよう)、八難(はちなん)」

Drum: Seven days, eight difficulties.

猿田彦 「九曜(くよう)の星(ほし)と」

Sarudahiko: With nine stars of deity.

太鼓 「年月日時(ねんげつにちじ)、災禍消除(さいかしよ
うじょ)と 舞(まい)や納(おさ)めん」

Drum: Time and tide, fine and dandy, let us dedicate dance.

注

1) 神楽の演目ごとの口上および神歌は、地域および神楽
社によってさまざまなバリエーションがある。ここに紹
介したものは、時間数が限られた中で学生に教えるため

の簡略版であることをお断りしておく。

文献

- 1) 神崎宣武『備中神楽の研究—歌と語りから—』岡山県美星町教育委員会, 1984.

An English Translation of the Divine Poems and Dialogues of *Sakaki-mai* and *Sarudahiko-no-mai* in *Bichu Kagura*

Kiyoshi Yamauchi

Department of Community Welfare, Niimi University, 1263-2 Nishigata, Niimi, Okayama 718-8585, Japan

Summary

This is a translation of the divine poems and dialogues of *Sakaki-mai* and *Sarudahiko-no-mai* in *Bichu Kagura*. In the class of Local Culture Practice of the Department of Community Welfare at Niimi University, students are taught to perform Kagura with these simplified versions by Toshifumi Ikeda, part-time lecturer and instructor of *Karamatsu-sha* Company of Bichu Kagura.

key words: Kagura, Bichu Kagura, *Sakaki-mai*, *Sarudahiko-no-mai*, Local Culture Practice